【4】 実践事例

―――― 授業づくり ――――

[1] 中学部の授業づくりについて

中学部では昨年度「生活を楽しむ子」をめざして、そのねらいに迫るために授業づくりの観点を設定し、今までの実践を見直した。授業づくりの観点は、基本的には前研究の観点に沿うが、題材の選定と支援の工夫を切り口として、生徒が主体的に活動に取り組み、次への意欲につながるような授業づくりを試みた。研究領域は生活単元学習を中心とするが、その考え方や取り組み方は、他の教科や領域においても生かされるものであり、当然のことであるが、個を大切にした授業づくりを意識した。

(1) 題材選定の視点の明確化

○目標や内容及び生徒の思考が発展的につながり、確かな力として積み上げられるような単元の設定や配置を工夫する。

○生徒の実態や個に応じた目標の達成、次への意欲に結びつくような題材を選定する。

○場の設定、集団の効用、素材や道具など、活用するものや手段を明確にして、題材を選定する。

《題材選定の視点》

①生徒の意思が取り入れられ、活動が思いきりできる。

②自分の体を思いきり使い、自分にもできると確認することができる。

③友だちと話し合って決めることがある。決めたことが自分たちで実行できる。

④いろいろ人との関わりがある。

⑤生徒一人ひとりの力が発揮できる場がある。

⑥実社会との関わりが強く、獲得した力が、実際の生活に生かしやすい。

⑦勝敗を意識し、勝つことを目標に力いっぱい取り組める。勝敗が分かる。

⑧えらい・つらい・むずかしい・できないかも知れないと感じる。しかし頑張ったら、ひょっとしたらできるかもしれないと見通しが持てる。自分なりにできたと喜べる。

(2) 個を生かし、個に応じた支援の工夫

○一人ひとりの個性を尊重しながら、目的や場に応じた支援の仕方を共通理解し、あらゆる学習や生活の場で生かす。

○個に応じた意図的な題材選定も、支援のあり方の一つとしてとらえる。

(3) 自分づくりの段階を意識した目標の設定

○生徒一人ひとりの実態を多面的にとらえて、めざす「楽しむ子」の姿を設定する。

○指導者の意図を反映した生徒一人ひとりの目標を設定し、生徒が目的意識を持って学習に取り組み、自己反省をして次への意欲につなげるようにする。

(4) 家庭との連携

○学校での学習の繰り返しや発展を家庭でも積み上げてもらうように、学級便りや生活ノート等を通して連携を取る。

○生徒の生活年齢を重視し、「大人らしい」扱いや「親離れ、子離れ」の時期を考える。

○地域の催し等に積極的に参加しようとする姿勢を家庭に望み、バックアップする。